

研究部

1 目標

- 教職員の研修の企画・運営を行い、研究主題「児童生徒自らが、自他のよさを見つけ、認め合い、高め合う自己指導力の育成」の研究・実践に努める。
- 授業研究や日常指導の工夫を行い、研修の成果が教育活動に還元されるように推進する。

2 努力事項

- 研究部と小中合同研究会及び班別研究会などとの連携を図ることで研究内容を共通理解し、小中一貫の生徒指導の機能を生かした実践が行えるように努める。
- 研究主題に迫るため、理論研究や研究実践を行い、研修の充実を図る。

3 運営事項

(1) 研究主題

児童生徒自らが、自他のよさを見つけ、認め合い、高め合う自己指導力の育成
—地域と連携し、生徒指導の機能を生かした実践を通して—

(2) 主題設定の理由

本郷地区の児童生徒は、明るく活動的で、元気な児童生徒が多い。一方、与えられた役割について真剣に取り組むが、自主的な取組に関してはまだ不十分である。また、基本的な生活習慣や規範意識が十分身に付いていなかったり、人とのコミュニケーションがうまくとれなかったりして、良好な人間関係を築くことが苦手な児童生徒がいる。

本郷地区の三校（国富小学校・本郷小学校・本郷中学校）は、平成14・15年度の研究指定（小中連携教育・学力向上）を契機として、三校合同研修会を行ってきている。この2カ年の研究において、班別研修を数多く行い、小中合同の授業研究や基本的な学習習慣の共通実践、広報誌の発行など、今後三校が連携しながら長期的に取り組んでいくべき活動や組織についての基盤づくりを行うことができた。指定研究以降の小中合同研修会では、情報交換やあいさつ運動・整理整頓の励行などの共通実践事項の取組と検証をしてきた。また、中学校職員による小学校での授業や入学説明会の実施など、小中学校間の連携を図る取組をしてきた。その結果、地域を巻き込んでの「あいさつ運動」を実施することができ、それぞれの学校の取組や児童生徒の活動の様子を理解する土台ができた。しかし、児童生徒に対する具体的な指導は、まだ小中学校それぞれに任されている部分が多く、9年間を見通した一貫性のある指導が十分ではなかったため、小中学校間の接続がなめらかであるとは言えない。

そこで、昨年度より小中一貫教育における9年間を見通した学習指導・生徒指導の在り方や地域に根ざした生徒指導の在り方を研究していくこととした。また、地域との連携なしには生徒指導の充実はないと考えられ、生徒指導の三機能（自己存在感・共感的人間関係・自己決定）を生かした実践、地域連携に関わる共通理解・共通実践を行うことで、児童生徒自らが豊かな自己実現を図るために、自分自身が自らを指導していく能力「自己指導力」へと発展させていきたい。

このことは、本校の教育目標の具現化を図ることにもつながり、学校が抱える教育的課題の解決を図る上でも重要であると考え、本主題及び副題を設定した。

(3) 研究の概要

① 研究の目標

児童生徒が、自他のよさを見つけ、認め合い、高め合う自己指導力を育成するために、小中一貫の生徒指導の機能を生かした学習指導・生活指導の在り方や地域と連携した生徒指導の在り方を究明する。

② 研究の仮説

地域と連携し、生徒指導の機能を生かして、日々の学習や生活の中で豊かな人間関係を築くための小中一貫した活動を行っていけば、自他のよさを見つけ、認め合い、高め合う自己指導力をもった児童生徒を育成できるであろう。

③ 研究内容

ア 学習研究班

- 生徒指導の機能を生かした学習指導の工夫
- 小中一貫の望ましい学習習慣の定着を図る取組

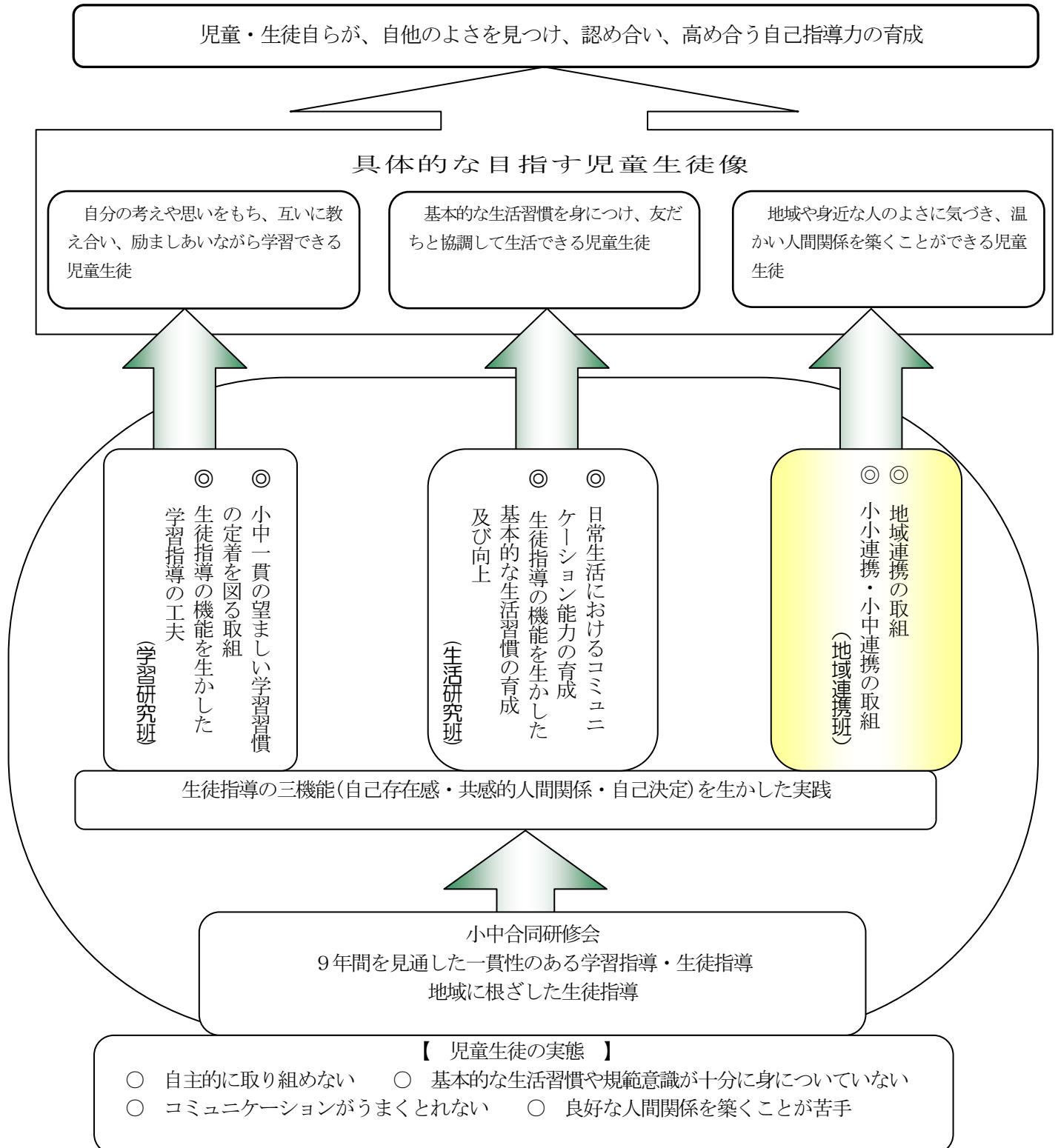
イ 生活研究班

- 生徒指導の機能を生かした基本的な生活習慣の育成及び向上
- 日常生活におけるコミュニケーション能力の育成

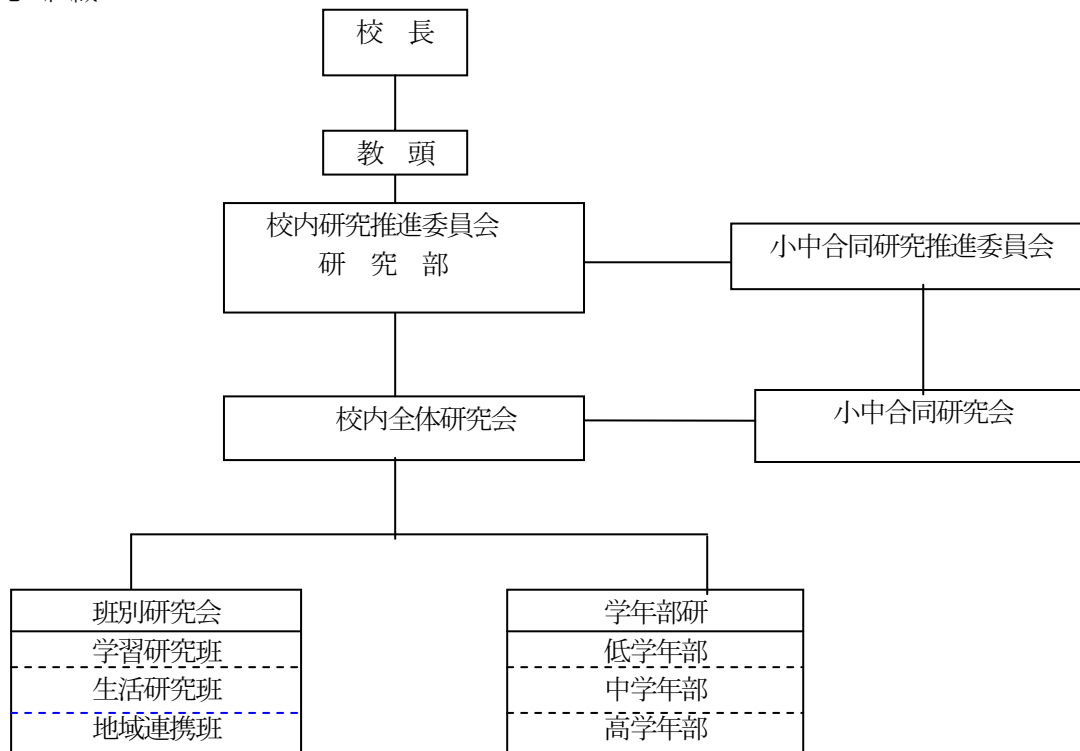
ウ 地域連携班

- 小小連携・小中連携の取組
- 地域連携の取組

④ 研究の構想



⑤ 研究の組織



⑥ 研究の方法

- ア 小中合同研究推進委員会
各小中学校の研究推進に携わる職員で構成し、合同研究会に提案する研究の企画運営に関する内容の検討を行う。
- イ 研究部
研究部員で構成し、校内の全体研究会に提案する研究の企画・運営に関する内容の検討を行う。
- ウ 校内研究推進委員会
校長・教頭・教務主任・研究部で構成し、研究推進に関する内容の検討を行う。
- エ 校内全体研究会
校内の全職員で構成し、研究の企画運営に関する内容の検討と研究実践についての共通理解を図る。
- オ 小中合同研究会
各小中学校の全職員で構成し、研究の企画運営に関する内容の検討と研究実践についての共通理解を図る。
- カ 班別研究会
三つの班で構成し、学習・生活・連携に関する実践的な研究を推進していく。